

まちづくり懇談会「タウンミーティング」開催

聞かせてください、皆さんの生の声を。

住民の皆さんの意見を町政に反映させるため、町長が地域に出向き、直接住民の皆さんと対話や意見交換を行う『タウンミーティング』を、町内30か所で3月上旬（予定）まで行います。これからの町に「何が必要なのか」「何ができるのか」「その実現のためにはどうすればいいのか」を一緒に考えませんか。開催日は各地域で異なりますが、どの会場に参加してもかまいません。☎ 福智町役場 総務課 ☎ 22-0555

対象地区名	開催日程	開催会場
伊方27区	3月4日 ㊦	方城分館
伊方28区		
伊方29区		
伊方30区		
伊方31区	3月5日 ㊦	方城支所
伊方32区		
伊方33区		
伊方34区		
伊方35区		
伊方39区	3月11日 ㊦	平原集会所
金田13区		

※ 開始時間はすべて19時からです。

※ 日程や開催場所などが変更になる場合があります。



3月開催の地区は上記のとおりです。
今月の懇談会ですべての日程を終えますので、
まだ参加されていない方は、この機会をご利用ください。

町長日誌

▼去る2月11日（建国記念の日）に金田駅ホームを主会場として、平成筑豊鉄道伊田線（直方）金

田駅（開業120周年記念式典が開催された。今でも、わたしたちの日常生活に欠くことのできない交通手段である平成筑豊鉄道伊田線は、明治26年2月11日の開業以来、明治・大正・昭和・平成と移り変わる世相とともに、120年の時を紡いできたことになる。▼筑豊興業鉄道を石炭輸送を目的に敷設し、その開業日を紀元節の日に設定したのは、殖産ムードが色濃く漂っていた時代背景を考えれば、自然の成行きだったと思われる。我が国の産業の近代化を支えた石炭を運ぶ鉄道として使命を果たしつつ、地域社会の貴重な輸送機関へと移行してきたのは、周知のことと思う。石炭を抜きにして日本の産業経済史は語れないが、それほど重要なエネルギー源の輸送経路であった伊田線に、もつと誇りを感じてもいいのではないだろうか。▼もう50年近く前になるが、わたしが高校生の頃（国鉄伊田線の時代）、沿線の各駅には、多数の駅員さんが勤務していた。当時は石炭を燃料とする蒸気機関車が走っていて、窓をあけると煤煙が入り込んで、上着などが少し煤けたよさになったものである。それも、今となつては懐かしい思い出の二コマとなっている。▼平成元年10月に、福岡県と沿線自治体そして民間企業の第三セクターとして発足した平成筑豊鉄道へ転換開業後は、数多くの新駅が設置されるなど、利用者の利便性向上が図られている。路線の安定的継続のためにも、できる限りの利用をしたいものだ。

浦田 弘二